

山野地域づくり協議会

# 広報 やまの

## 祝 令和2年南砺市成人式



No.125  
2020.3.25

山野地域づくり協議会  
〒982-0204 南砺市飛騨屋20  
TEL. 0763-82-4510

# ご成人をお祝いして

南砺市市議会議員 川原 忠 史

ご成人、おめでとうございます。  
ここまで育てられましたご両親をはじめ、ご家族の皆様には、喜びもひとしおのことと思います。

親御さんにとっては生まれた日、はいはいからつかまり立ち、一歩歩き出した日、保育園・小学校・中学校・高校など、いろいろな節目の中で、成長を感じられたことを、思い出されるのではないかと思います。

さて、成人された皆様、今どのような生活を過ごしておられますか？ 子供の頃の夢は叶えられていますか？ 夢の実現に向かって、一生懸命がんばっておられることと思います。

これからが皆様の頑張りどころ、自らの手で未来を切り拓いてください。皆様の活躍を心よりお祈り申し上げます。

そして、皆様の若い力、想いを山野地区発展に尽力くださいますようお願い申し上げます。



# 新成人となつて

小幡 春 奈

待ちにまつた成人式ですが、コロナウィルスの時期にかぶることも、昨年のような事件が起こることもなく無事迎えることができ、嬉しく思います。

私は高校卒業後就職したので、成人したから何か変わったという感じは特にありませんでした。しかし、職場の先輩方との話で二十歳を過ぎたら年月の流れが早いと聞いて、実感が無くても一つの節目なんだと思ひ、今までに



挑戦していなかったことにも積極的に取り組んでみようと思ひました。

幼い頃思ひ描いていた大人とは少し違っています。が、今いる自分の場所です。これからも頑張っていこうと思ひます。

# 相撲からの学び

岩倉 敬 弥

私は今、大学で相撲部に所属しています。私たちの大学は、学生相撲一部リーグBクラスにいます。自分が所属している間に、一部リーグAクラスに上がるのが目標です。そのために日々練習とトレーニングに励んでいます。怪我をすることもありますが、そんな時も今できる練習やトレーニングを続けてきました。今年は三年生なので部の中心になれるよう、より一層頑張っていこうと思ひます。

相撲を続ける中で、忍耐力や集中力、コミュニケーションなど一人では学べなかつたことや気づけなかつたことが学べました。卒業して社会に出てから、相撲部で学んだことが自分を支える力になると思っています。



# 将来の「山野」を想う

山野壮年会 村岡 裕一

山野壮年会では、地域行事への参画活動の他に、年2回の活動を行っています。

令和元年の行事を振り返ると、夏の「日帰り研修会」で新潟県上越市の歴史博物館・高田城三重櫓・高田街並み・岩の原ワイナリーを見学してきました。

冬の「男の料理教室・忘年会」では、山野の里芋を使った芋鍋を作りました。数少ない交流行事ですが、日頃の各集落の情報交換や地域間の交流を深めることができました。



日帰り研修会(上越)



岩の原ワイナリー



男の料理教室・忘年会

さて、近年少子高齢化が加速する中、住みやすい地域を維持してゆくためには、各年齢層の交流活動が大切だと思います。

南砺市が進める「住民自治」の実現には、困難も多々ありますが、お互いを理解し合うことから始まるのだと思います。

まずは山野地域活動へ積極的に参画し、各集落が交流することで、人と人が助け合う、住みやすい山野地域となることを願っています。

壮年会各会員は、集落や地域で中核的な役割を果たして、将来の「山野」に貢献していきます。



# かぶら寿司づくり

## 体験教室

山野地区集落活性化協議会では、12月15日21日にかぶら寿司づくり体験教室を開催しました。14名の参加を得て、かぶらは西村一郎氏が栽培した「聖護院」で大きいものは2キありました。また、麴は福光の「石黒種麴店」から購入したものです。

かぶら寿司は各家庭の味があります。参加者は味付けや、塩漬けの期間や食塩の濃度、はさむ魚の種類等、意見を交わしながら和気あいあいと漬け込みを行いました。

甘酒づくりは川原正彦氏に教えていただきました。温度管理が重要なことがよくわかりました。温度設定の加減で茶色くなり出来上り具合が心配になりました。塩漬けしたかぶらにサバの切り身をはさみ、交互に甘酒とからませて一週間漬け込みました。

桶から出してまずは試食。方々から「おいしい！」と言う声が上がりました。一家族当たり2〜3キのかぶら寿司を持ち帰ることができ大満足です。

今後も引き続き様々な取り組みを予定しています。かぶら寿司づくり、季節ごとの里いも料理や味噌・漬物を皆さんとつくる体験教室も考えています。

どうぞ、皆様の参加とご協力をお願いします。

# 課題解決円卓会議 発表会

令和2年2月2日 於…木彫りの里

## 強みを活かした地域づくり

A班報告内容 川合優子

昨年10月から富山県の「話し合い促進事業」の支援を受けて当協議会では地域の課題を解決するために「山野地区課題解決円卓会議」を設置して山野地区の課題を解決すべく話し合いを進めてきました。

円卓会議では一昨年10月に中学生以上の全住民を対象に行ったアンケートに基づき話し合いました。住民の多くの皆さんは



山野地区の基幹産業である農業の将来を心配しておられます。

そこで3つのテーマ「A班強みを活かした地域づくり」「B班暮らしやすい環境づくり」「C班情報発信で価値の再発見」に分かれ3回にわたり話し合いを重ねました。

2月2日には発表会を開き住民の皆様と富山県や南砺市の方々を来賓に迎え、それぞれの提案を聞いていただきました。

A班は山野地区の特産物である里いも栽培を幅広い住民が関わることで生産拡大を図ることを提案し、B班は交流センターを住民の憩いの場として整備し、気軽に来場するためタクシーのような移動手段の提供を提案しました。C班はSNS（ツイッター・フェイスブック等）を用いて山野地区の魅力を発信することと、若者たちのU・イターン・移住を促すことを提案しました。

私たちの住む山野地区の特産品である里いもは秋の季節販売だけでなく、通年販売を目指し住民の方々に関心を持ってもらいたいと考えました。そこで老若男女みんなで汗を流しながら里いもを栽培してみようと計画しました。

里いも農家さんから、栽培手法を聞きました。畝づくり・植え付け・マルチ掛け・泥入れ・追肥・雑草抜き・収穫後の仕分けなど大変な作業ばかり。人出が多くかかる作業なのでみんなで協力すればできるのではと話し合いました。

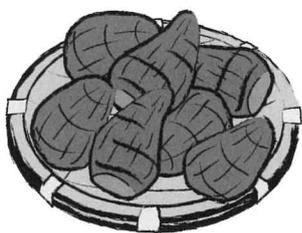
そこで植え付けには児童クラブとその保護者、また収穫後の

選別にはサロンの高齢者の協力と、里いも栽培が実現できそうになってきました。

プレゼン発表時には、ご列席された各種団体の方々にも協力をお願いしたところ、快諾していただきました。

この春から地区民みんなで栽培する里いも畑に山野地区の希望の光が見えてきました。

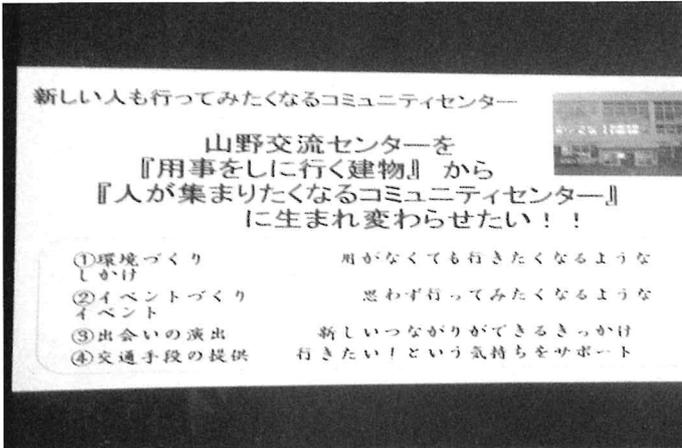
山野地区の皆様のご協力をお願いいたします。



# 暮らしやすい環境づくり

## B班報告内容 榎木勝規

円卓会議B班では暮らしやすい環境づくりのため山野交流センターを住民の憩いの場にする事、また山野交流センターまでの送迎に、タクシーのように便利でしかも安価に利用できるしくみを作ることを構想しました。



そのために今年はず、交流センターの会議室とロビーについて、椅子やテーブルの種類・配置を工夫し、利便性を高めまします。交流センターに簡単なカフェのような機能を持たせ、気軽に立ち寄ってコーヒーを飲んだり、話をしたりといった交流が広がることを期待しています。

また、送迎サービスについては期間と時間帯を限定した試験運用をします。実際に利用してみても頂き、依頼の仕方、運行スタッフとしての働き方、要望やご意見、感想などを集めます。

交通問題解決のための新しい試みとして、先駆けて山野地区で実証実験をすることとなりますので、ぜひ多くの方に広めていただき、利用者として、あるいは送迎スタッフとして、関わって下さるとうれしいです。

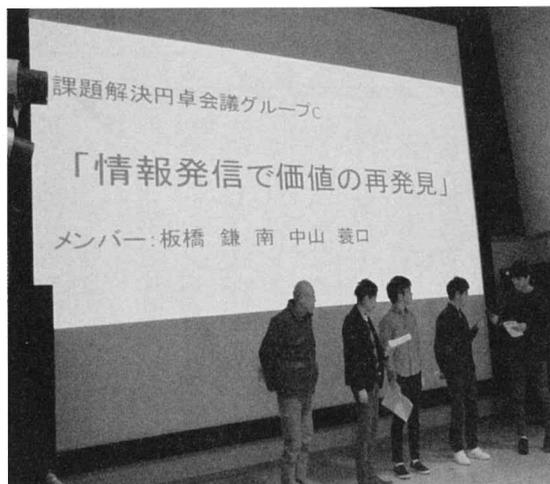
# 「情報発信で価値の再発見」

## C班報告内容 南 眞太郎

山野地区の人口は2015年時点で1918人、高齢者率は34%です。これが2045年には1347人(6割)、高齢化率は46%に推移するとの予測が立てられています。

地区の新しい担い手となる若い世代を増やすために、若い世代のU・Iターンの増加が必要と考えました。移住者の増加に成功した自治体を参考として、C班は情報発信で山野地区の価値を再発見する計画を提示しました。

山野地区は豊かな自然があり、名産に里いもがあり、都会にはない平穏で静かな暮らし。山野ライフがあります。ブログを張ったホームページの開設と、SNS(ツイッターやフェイスブックインスタグラム)による情報発信で山野ライフの魅



力を全国に発信します。こうして若い世代の興味を引くことで、希望者が増やします。

ブログとホームページ更新を行う交流センター職員を支える形で、山野ライフの魅力を伝える素材(記事と写真)をサポートメンバーと地域住民が投稿します。

その後、移住希望者への宿泊施設の整備を行います。

「いきいき健康サロン」  
を終えて

高 田 かおる

昨年5月17日にスタートした「いきいき健康サロン」は今年3月6日で無事終了しました。3月26日にもう一回実施の予定でしたが、新型コロナウイルス対策で中止としました。

サロンでは、まず山野ヘルスボランティアの方による血圧測定や健康体操（体力増進・転倒防止）をします。

講師を招いて折り紙工作で素敵な花の壁掛けを作ったり、臨床美術でカボチャを作ったりして山野ふれあい祭りに出品もしました。もちろん、お喋りタイムも大切です。

また、音楽でのリズム遊びや笑いヨガも、脳を刺激し活性化させる大切なアンチエイジングになります。

次年度も、5月15日から毎月第一、第三金曜日に実施いたします。大勢の方の参加をお待ちしています。特に男性の方にも来ていただけるよう、内容を検討中です。

一外に出ていつまでも元気にノ

笑顔で元気「ほのぼのの家」

健康福祉部 ふれあい部長 高 田 博 之

毎年2月の第3土曜日は、ふれあい部会が中心となり「ほのぼの家」を開催する日です。

一人暮らしで70歳以上の方、80歳以上のご夫婦だけでお住まいの方を招待して、楽しいひと時を過ごし、昼には鍋料理を囲み和気あいあいと語り合う内容です。

参加していただいた招待者は14名、応援ボランティアは16名でした。

今年も、音楽療法士の田悟恵さんに、思い出の歌や楽しいト

ーク、指運動等で会場を盛り上げていただきました。

「スキー」「紀元二千六百年」「東京五輪音頭」「黒田節」等懐かしい歌や、軽快な話術に引き込まれ、童心に帰り楽しんだひと時でした。



好みのカップ麺を選ぶジャンケンゲームでは、多種類の中から迷いながら選び、満足した笑顔が見られました。昼は、ボランティアグループの皆さんが心を込めて準備された「海鮮鍋」、昆布たっぷりのおにぎりを食べ、楽しく会話をしながら満腹になりました。

初めて参加された方は「楽しかった。満足した。来年も来たい。」と感想を述べておられました。

来年もお待ちしています。

みまもりカメラを  
設置しました！



協議会では富山県警の補助を受け、山野保育園とJAとなみ野井波中央支店の間の交差点に防犯カメラを設置しました。

この交差点は交通量が多く、4方向に止まれ標識があるにも関わらず、一旦停止を怠る違反者が多い場所です。

交差点を通過する自動車や歩行者の安全・安心を図り、近くの保育園の子供たちや交流センターを利用する人たちを守るために、防犯カメラは有用な装置です。

このように協議会は、地域の安全安心確保の一端を担っています。

令和2年度役員紹介

一年間よろしくお願ひいたします

山野町内会長協議会

副会長	専勝寺	清水明	安室	井波軸屋	野能原	飛驒屋	岩屋	山斐	坪野西部	坪野中部	坪野東部	監事	会計	副会長	副会長
嶋喜彦	川原忠史	村岡佳篤	磯邊和夫	松長幸治	吉田重信	藪長政昭	高山光夫	片田昌宏	木下美一	板橋秀司	田中豊明	大久保幹夫	松川毅史	川原忠史	高山光夫
齋藤尚	川原忠史	村岡佳篤	磯邊和夫	松長幸治	吉田重信	藪長政昭	高山光夫	片田昌宏	木下美一	板橋秀司	田中豊明	大久保幹夫	松川毅史	川原忠史	高山光夫

山野老人クラブ長寿会

副会長	庶務	会計	監事	坪野中部	坪野西部	山斐	岩屋	飛驒屋	野能原	井波軸屋	安室	清水明	高屋	専勝寺	副会長	副会長
細川謙一	山田義弘	河原秀樹	村岡裕一	杉森正法	藤原孝志	水野敬一	清原久明	前川達夫	齋藤尚	往藏智朗	細川謙一	河原秀樹	嶋喜彦	杉森正法	稲垣俊広	吉田郁
細川謙一	山田義弘	河原秀樹	村岡裕一	杉森正法	藤原孝志	水野敬一	清原久明	前川達夫	齋藤尚	往藏智朗	細川謙一	河原秀樹	嶋喜彦	杉森正法	稲垣俊広	吉田郁

山野青年会

高齡者学級會計	監事	女性部長	女性副部長	文化祭展示委員	文化祭発表委員	盆踊り実行委員	盆踊り実行委員	文化祭実行委員	役員	副会長・広報誌編集委員	副会長	副会長	交通安全リーダー	訪問支援活動委員	広報誌編集委員	副会長	副会長	副会長	副会長
石黒洋子	長谷邦威	磯邊孝子	長谷千代子	長野千恵	大野哲朗	吉田佐郁	荒木憲一	磯邊孝子	長谷邦威	長野千恵	大野哲朗	吉田佐郁	荒木憲一	磯邊孝子	長谷邦威	長野千恵	大野哲朗	吉田佐郁	荒木憲一
石黒洋子	長谷邦威	磯邊孝子	長谷千代子	長野千恵	大野哲朗	吉田佐郁	荒木憲一	磯邊孝子	長谷邦威	長野千恵	大野哲朗	吉田佐郁	荒木憲一	磯邊孝子	長谷邦威	長野千恵	大野哲朗	吉田佐郁	荒木憲一

(これ以降は諸事情で総会開催が遅れ、平成31年度役員を掲載)

山野児童クラブ育成会

副会長	副会長	副会長
大浦靖之	田村慎治	田村慎治

母親クラブ

副会長	副会長
高橋智絵里	田村数枝

山野児童クラブ育成会

副会長	副会長
大浦靖之	田村慎治

山野壮年会

副会長	副会長
嶋喜彦	齋藤尚

副学級長	副学級長	副学級長
吉田郁	大野哲朗	菊野寿美子

役員	役員	役員
柴田将成	藤井公嗣	南真太郎

監事	監事	監事
高橋宣之	藤坂美由紀	田中健二

# 第44回 防火ポスターコンクール表彰者

主催 南砺市消防団山野分団



- |                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>磯辺知花(小1)</p> <p>磯辺悠花(小3)</p> <p>野村吏来(小5)</p> <p>松田侑佳(小6)</p> <p>小林蒼空(中1)</p> <p>野村妃希(中3)</p> <p>銀賞</p> <p>小嶋康生(小3)</p> <p>金田龍樹(小4)</p> <p>金田奈樹(中1)</p> | <p>銅賞</p> <p>上田優里香(中2)</p> <p>細川楓子(中1)</p> <p>荒木陸哉(小6)</p> <p>齋藤紀久(小5)</p> <p>竹原美遥(小4)</p> <p>板橋祐実(小3)</p> <p>澤山叶芽(小2)</p> <p>高田真衣(小1)</p> | <p>努力賞(保育園)</p> <p>板橋幸平(年長)</p> <p>上田美悠香(年長)</p> <p>大谷馨子(年長)</p> <p>釣谷洸佑(年長)</p> <p>中山彩実(年長)</p> <p>広本彩乃(年長)</p> <p>高田侑依(年中)</p> <p>綿貫結月(年中)</p> <p>岡野琴未(年少)</p> <p>金戸麻紘(年少)</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 編集後記

山野課題解決円卓会議で討議され提案された内容は、協議会内で吟味しできることから実現していきたいと考えております。

A班は里いもづくりの拡大を、B班は交流センターへの移動手段の提供と、魅力的な居場所づくりを検討しています。また、C班はSNSでの情報発信を行うホームページ制作と、地区の様々な取り組みを紹介する「集落の教科書」づくりを目指します。

この度の円卓会議から得られた教訓の一つは、委員を公募することで山野地区内の「見えなかった逸材」を発掘することができたことです。

住民の中に、私達が抱える課題・問題を我が事と考え、その解決に向け真摯に取り組む方が、一定数おられることが分かりました。

協議会はこれらの方達と連携し、住民皆さんの幸福感・満足感を増し加えるために活動していきます。

(高田 実)